

自分スタイルの確立！ 通信制

可能性への挑戦！ 全日制

2025.11.11

新時代を創る！

新生徒会長 が描く「レベルアップ」した学校の未来図

「ツブロック禁止」への疑問から立ち上がった熱きリーダーの素顔に迫る！

立候補のきっかけは「変えたい」という強い思い

この度、見事、新生徒会長に就任した伊藤君にインタビューを行いました。その決意の背景には、前年度の副会長としての活動経験が大きく影響しています。

「1年生の時、副会長として活動してきて、特にツブロックなどの校則についてたくさんの相談を受けました。その時、自分なら変えられると思ったので、生徒会長に立候補しました。」

生徒たちの切実な声を受け止め、「自分事」として学校改革に乗り出すその姿勢に、早くも新リーダーとしての片鱗がうかがえます。

意外な一面！伊藤会長を癒やす「モチ」の存在

生徒会長としての真摯な姿とは別に、普段の伊藤君はどんな高校生なののでしょうか。意外な趣味について聞いてみました。

「自分のペットをいじるのが大好きです。猫を1匹飼っていて、名前は『モチ』です」

学校の未来を考える熱いリーダーも、家では愛猫「モチ」との触れ合いで心を癒やしているようです。生徒会長の引き締まった表情の裏に、愛らしい猫を溺愛する優しい一面があるのは、親しみを感じさせるエピソードですね。

改革実現の第一歩！生徒会を「大きな組織」へ

改革の核となる「ツブロック」の校則問題に対し、具体的な取り組みを聞きました。伊藤会長はまず、土台作りから着手すると語ります。

「生徒会はまだ小さな組織なので、今年度は準備期間として、まず大きな組織になるように声かけをしていきたい。共鳴する生徒の集まり（ムーブメント）を広げ、生徒会が提唱する改革への支持率を高めていきたい」

同じ考えを持つ仲間を増やし、生徒会活動を一部の人間だけのものにしない。これが伊藤会長の描く第一歩です。共に支え合える関係性を大切に、役割や肩書きに関係なく「同じ土台に立って」意見を交わせる信頼できるチームを作りたいと、その抱負を述べました。

ICTを活用し、全校生徒の声を活動へ反映

生徒会活動に全校生徒の声を反映させるため、伊藤会長が掲げるのは現代的な方法です。

「ICTが発達しているので、タブレットをよく使って、アンケートや相談を集約したい。それを生徒会で話し合い、決定して学校を変えていきたい」

学校に浸透しているICT（情報通信技術）を最大限に活用し、各クラスからの意見を広く、そして効率的に集める。デジタルネイティブ世代の強みを生かした、現代的な生徒会活動に期待が高まります。

任期後に託す「時代に合ったレベルアップした学校」

この1年間の任期を終えた後、後輩たちにどのような学校をバトンタッチしたいのでしょうか。

「この時代に合ったようにレベルアップできるような学校になったらいいと思っています。」

時代の流れは早いので、その時代時代にあった学校にしていってほしい」

単に「現状維持」ではなく、常に「レベルアップ」し続ける、しなやかな学校の姿を理想としています。

全校生徒へのメッセージ「どうか信じて、託して欲しい」

最後に、広報紙を読む生徒や地域の方々へのメッセージとして、決意を表明してもらいました。

「まだ微力ですが、皆さんの力があれば、色々なことに力を発揮できると思います。是非、私のことを信じて、託して欲しいなと思っています」

新生徒会長・伊藤君の、学校を「変えたい」という熱意と、全校生徒と共に歩もうとする強い意思を感じさせるインタビューでした。

彼のリーダーシップのもと、学校がどのように「レベルアップ」していくのか、今後の活動に注目です。



楽しく、思いやりのあふれた学校をつくろう！

通信制課程 生徒会長 増島君が語る

「全員参加」で創る、居心地の良い学び舎！

このたび、通信制課程 生徒会長に就任いたしました、増島です。生徒の皆さん、並びに教職員の皆様、どうぞよろしくお願いいたします。

生徒会長として、私が目指すのは「生徒会が作る学校」ではなく、「生徒全員で作る学校」です。

通信制課程には、実に多様な背景や目標を持った生徒が集まっています。そうした一人ひとりの個性が輝き、誰もが安心して学べる居心地の良い環境を、私たち全員の手で築き上げたいと考えています。

その基盤となるのが「思いやり」です。私自身が率先して皆さんに声をかけ、行動を起こすのは当然ですが、学校をより良く変える力は、生徒一人ひとりの小さな行動の中に宿っています。

「ごみが落ちていたら拾う」「誰かの困っている姿を見かけたら声をかける」といった、ささやかな気遣いが、やがて大きな思いやりの輪となり、学校全体を包み込む温かい空気を作り出すと信じています。お互いを認め、尊重し合うことで、この学び舎はきっと皆さんの「最高の居場所」となるでしょう。

また、スポーツデイやボランティア活動などの学校行事は、学年の枠を超えた交流を生み、通信制課程の一体感を育む貴重な機会です。ぜひ、互いを思いやりながら、精一杯楽しみ、絆を深めていきましょう。

「楽しく、思いやりのあふれた学校生活」を皆さんと一緒に実現できるよう、会長として誠心誠意、努めてまいります。皆様のご理解とご協力を心よりお願い申し上げます。



赤い羽根 共同募金



全校で集めた善意19,061円を託す！JRC部が語る募金活動の工夫と願い

10月22日、本校を代表してJRC部の江ヶ崎君と石毛君が、千葉県共同募金会匝瑳市支会の会長へ、校内で集まった19,061円の赤い羽根共同募金を贈呈しました。全校生徒と先生方の温かい善意が詰まったこの募金活動について、代表として活動にあたった2人に話を聞きました。

「伝わる」ための工夫

全校に募金を呼びかけるにあたり、苦労した点や工夫した点はあったのでしょうか。

江ヶ崎君は、「赤い羽根共同募金について、知っている人もいれば知らない人もいる。」という点を課題に挙げました。

「先生方や生徒全員に知っていただくために、どのように伝えればいいのかというふうに、文章や聞き取りやすさなどの工夫をしました。」

また、石毛君は、単にお金を集めるだけでなく、募金の持つ意味を伝える重要性を意識したと言います。

「募金って言うと、やっぱりお金をみんなから回収するので、どうすれば集まるのかというのを考えたりして。あと、そのお金がどこに使われるのかというのを考えて、みんなにそのことを知らせられるように工夫してやってみました。」

両名とも、募金活動の意義を深く理解し、その思いが全校に伝わるよう尽力したことがうかがえます。

募金に込めた願い

集まった募金を渡した際、「どのようなところに役立ててほしいか？」という願いを尋ねると、二人は口を揃えて「支援を必要としている人々へ！」と答えました。

江ヶ崎君は、具体的な対象として次のように述べました。「やっぱり、その子供たちやご老人の方の支援とかに使っていただきたいなと思っています。」

石毛君も江ヶ崎君と同じ気持ちで、さらに幅広く使ってほしいという願いを語りました。

「僕も同じで、子供たちのためとか、ご老人のためとか、あとはやはり、そういうなにか助けが必要な方々に使ってほしいなと思います。」

この募金は、子供からご高齢の方まで、地域社会の福祉のために活用されます。

江ヶ崎君、石毛君、そして、JRC部の皆さん、お疲れ様でした。

ご協力いただいた全校の皆さん、ありがとうございました。来年も、この温かい支援の輪が広がることを期待しています。

